

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

名 前 田沼靖一

作成日 2023年9月20日

## 1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

現在担当している科目は、人間科学部健康栄養学科において、「保健機能食品論」(選択、3年前期)、「チーム医療連携論」(選択、3年後期)、「薬局管理栄養士実習」(選択、4年前期)、人間科学部ヘルスフードサイエンス学科において、「食品機能学」(必修、3年後期)、及び保健医療学部看護学科において、「薬理学」(必修、1年後期)、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻において、「薬理学」(必修、2年後期)である。

各学科の教育目的に沿って、まずは基礎学力を身に付けることに専念し、その上に専門知識・技能が習得出来るようにすることを教育の主眼としている。そして、社会的、文化的、心理学的側面から、人間を多面的・総合的に理解し、問題解決能力を身に付け、幅広い分野で活躍できる人材を養成することに尽力している。

健康栄養学科では、主に薬局管理栄養士の業務を理解するためのビデオや調剤薬局での実習を通して、ドラッグストアの現場で必要とされるサプリメントなどに関する専門知識と地域住民の心身健康に親身になってアドバイス出来る人材の育成を進める。ヘルスフードサイエンス学科では、「食品機能学」において、食品中の有効成分に関する専門知識・技能を身に付け、科学的エビデンスに基づいて機能性食品に関する問題に対して適正な解決策を提案出来る人材の育成を行う。看護学科及びリハビリテーション学科では、疾患に対する薬物療法の専門知識・技能、及び患者に寄り添える心を持って、医療の現場で役立つ人材の育成を進める。

## 2. 理念 (教育に対する考え方)

人間総合科学大学における教育研究の理念は、「人間の総合的な理解」と「心身の相関性の理解」を基盤として、人々が安心・安全に心豊かに暮らすことの出来る社会の創成に尽力出来る人材を育成することにある。私の所属する人間科学部も保健医療学部も共に人間を対象にして、特に、「食と栄養」を科学的・総合的に追究することによって、心身健康で豊かな社会を構築することに貢献出来る科学的能力・実践的能力と資質を身に付けた人材を育成することを理念としている。

この理念の下に、私自身も長年にわたる薬学・医学分野での研究・教育で培った知識と技能を同じ方向性を持って学生に伝え、学生自身が自信を持てるようになるための基盤的な知識を修得出来るように、教育・研究に尽力したいと考えている。学習で一番大切にしていることは、基礎的な知識(本学に於いては、数学、化学)を修得することである。よって、その点に立ち返り、学生に寄り添って基礎知識を充実させたいと考えている。また、私の専門は生化学、分子生物学、創薬科学であり、実験科学であることから、問題解決に対して論理性を持った道筋(仮説)を立て、科学的エビデンスに基づいた方略が提案出来る能力を身に付けられるように導くことに重点を置いた教育を心掛けている。

学生には、食と栄養、心身健康に関する問題に対して、科学の面から好奇心を持って積極的に取り組んで欲しいと思っている。また、実践的な実習を通して、物事を科学的なエビデンスに基づいて理解し、ひいてはその本質を見抜く目を養って貰いたいと考えている。そして、健康・医療分野での社会的な課題に対して自主的に取り組み、社会的責任感と他者への思いやりなどの資質を持った心豊かな人物になることを期待している。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

1. 「食と栄養、心身健康」に関する専門知識・技能を幅広い視野で理解するために、教科書、参考図書をじっくりと読む習慣を身に付ける。さらに、グループディスカッションなどで自分の考えをプレゼンテーションすると共に、他者の考えをきちんと聞き取り、自分自身の考え方にフィードバックをかける機会をつくる。
2. 食品やサプリメントに含まれる有効成分の物性を構造式の面から理解し、さらに、薬効を示す濃度の概念も理解する。そのために、生薬を例として薬効成分の本体、薬理作用などの実践的具體例から、課題に対して数学、化学に基づいて定量/定性的に考察出来る能力を育む。
3. 糖尿病や肥満などの生活習慣病、がん、認知症などの様々な疾患について、それらの発症機序を遺伝子—細胞レベルから理解すると共に、心身健康の面からも相関を追究し、総合的に病態を理解し、患者にとって最良の治療法を考察し、臨床現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。
4. 様々な専門知識を統合して、問題解決を図れる能力が着実に身に付けられるように、食事—生活習慣—疾患発症の総合的な身近な例題に対して、グループディスカッションなどの実践的な問題解決学習の時間を設ける。
5. 身に付けた専門知識・技能、問題解決能力を可視化し、社会に還元出来るレベルに到達しているか否かをみるために、ロールプレイングなどを取り入れて、実践的な疑似体験の学習方法を行うことによって、必要とされる忍耐強さ、自立と共生、協力の精神を培う。

### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

人間科学部健康栄養学科における「保健機能食品論」（選択、3年前期）、「チーム医療連携論」（選択、3年後期）、「薬局管理栄養士実習」（選択、4年前期）は、選択科目でセット履修になっていることもあり、履修学生が若干であったことから開講されていない。

ヘルスフードサイエンス学科における「食品機能学」（必修、3年後期）、及び保健医療学部看護学科における「薬理学」（必修、1年後期）、リハビリテーション学科理学療法学専攻における「薬理学」（必修、2年後期）は、今年度後期から授業がスタートするため、まだ成果や授業アンケートはない。

### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

短期目標としては、各科目の基礎的知識の理解とその学問の本質が理解出来ているか否か、1ヶ月ごとの達成度を課題提出によりチェックする。そこでの目標は、健康と医療に係る様々な社会現場において、管理栄養士、栄養士、看護師、理学療法士、或いはフードコーディネーターなどとして社会実装に貢献出来る資質を培うことにある。

中期目標としては、習得した専門知識・技能を人間の心身相関の面から学際的に幅広い視点で理解し、心理的、社会的、文化的側面から多面的・総合的に問題解決を図る能力を修得出来るようにする。その根底にある目標は、「人間の総合的な理解」と「心身の相関性の理解」を基盤として、「食と栄養」、「心身健康」に関する科学とフードビジネスについて幅広く学び、健康で豊かに暮らすことの出来る社会を創成出来る人材を育成すると共に、「人の命を救う」気構えを培うことである。

